



すずしろ 22 2023 3月報

すずしろは大根 それは大地の豊かな恵の象徴 22世紀につなげる農のあり方を 共に考える会

援農状況 2月の援農集計

	援農時間 (h)	参加人数 (人)	参加延べ人数 (人)	農家数 (軒)	累計援農時間 (h)	累計参加延べ人数 (人)
2023年2月	1,627	67	456	23	3,130	883
2022年2月	1,417	52	374	20	2,799	744
増減	+210	+15	+82	+3	+331	+139

2月の援農は、1,627時間（前年比210時間増）でした。突出して忙しい農家さんがありますが、全体的には春待ちの模様です。作業内容は、長ネギの収穫や里芋の出荷、椎茸菌の打ち込み、竹林整備・梅の剪定、畑の施肥作業、ジャガイモの植え付けなどでした。新規入会者を含め67名の方が援農に参加されました。援農窓口の方の積極的な呼びかけの効果が出ております。3月に入り気温の高い日が続く、空気の乾燥も続いております。スギ花粉飛散のピークを迎え、マスクが手放せない方も多いかと思っております。引き続き「安全」並びに「健康」最優先での援農参加をお願いいたします。（援農サポータ北尾）

理事会報告 3月度理事会 (3/16(木) 17:30~21:00 台町市民センターにて。8名)

- ① 総会後処理：届け出の確認、総会での質問に対する回答の検討。
- ② 新体制の役割分担（理事長：清水、副理事長：北尾、会計：青山、事務局長：飛田恵、農園担当：清水、飛田康、援農担当：北尾、若林、地産地消担当：小西、糠信）
- ③ イベントについて：竹の子掘り、ジャガイモ掘り（7/1 雨天 7/8）、料理教室（6/24）
- ④ 名簿の整理をすすめる。
- ⑤ 農園報告：耕耘機3台を3年ぶりに点検した。富所・新富所農園の耕耘機はローターが半分にすり減っているため、交換する（約3万円）。今後は2年に1回点検する。

竹の子掘りのお知らせ 常盤牧場竹林（寺田町 大恩寺向かい）

収穫した竹の子は、1kg350円での買い取りとなります。

- ・参加費：会員は無料、小学生以上100円、未就学児無料
- ・持ち物：つるはしやスコップ、竹の子を入れる袋、飲み物、汚れてもいい服装
- ・日時：4/15、16、22、23、29、30の8~10時、10~12時
- ・問合せ・申込：小西(090-5525-0205)、合津(080-1351-4860)



援農体験記 『農業は難しいかな?』

台町 大神田 克治

私が家庭菜園を始めたのは、約29年前からで、2000年から2年間は、佐藤農園（藤沢市）で援農を行い、この時学んだ事が農作業の基礎となっています。定年を迎えるに当たり、神奈川県の中老年ホームファーマー事業に参加して農業サポーターの資格をとり、就農を目指していましたが、やはりハードルは高く、就農を断念しました。

そんな折、すずしろ22のホームページを見つけ、11月3日に行われたNPOフェスティバルのブースに伺い、12月末に入会しました。まだ、入会して2ヵ月余りですが、峯尾農園を中心に活動をしており、野島農園のブルーベリーの剪定と、常盤牧場の竹林の整備も致しました。峯尾農園では、ナス/冬用資材の片付、人参の収穫と洗い、種蒔、苗の植付、人参/大根の袋詰めなどをさせて頂きました。作業して気付いたことは、そのどれもに、今まで自分が知らなかったノウハウがあることです。また、一緒に作業を

して頂いているすずしろ22のメンバーも皆いい方で、楽しく作業させてもらっています。4月以降は農繁期となり忙しくなりますが、農家の方のお力に少しでもなればいいなと思っています。



通常総会報告

2023 年度（令和 5 年度）通常総会

(2 月 26 日(日)13 時～15 時、エスフォルタアリーナにて)

I、理事長挨拶・・・会員の皆様には この一年間、会の活動に対し、ご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。過去 2 年の総会においては、コロナ感染防止対策として皆様には書面による議決権行使をお願いして参りました。ここに来てようやく下火になってきたとはいえ、まだまだ気の抜けない状況下であって、本日まで出席いただきましたこと、誠にありがたく存じます。

2022 年度の活動報告については、各担当理事に委ねますが、本日は皆様と一堂に会する 貴重な機会ですので、「すすしろ 22」発展のために忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

II、議長に永澤孝夫氏、議事録署名人に酒井敏夫氏、飛田恵美子氏を選出。正会員 154 名のうち、出席 21 名、書面議決書と委任状を合わせて 74 名、合計 95 名で過半数となり、総会成立の報告。

III、議事

第 1 号議案 2022 年度活動報告

- ・冒頭を清水理事長より、「援農活動」を北尾理事より、「農地応援活動」を清水理事長より、「地産地消活動」を佐藤理事より、「その他の活動」を飛田恵理事より報告。



(質問 1) 農福連携が出来なかったとのことだが、グッドホームは 2021 年度援農実績があったと思うが。

(回答) グッドホームはすすしろ 22 の農家会員だが、2022 年度は援農は無かった。

(質問 2) 農地応援で昨年度は苦情が無かったとのことだが、これまであった苦情を教えてください。

(回答) 久保山農園は住宅地に囲まれているため、農園開設前に、騒音、ゴミ、路上駐車について苦情をおっしゃる方がおり、話し合った。開設後は苦情は無い。

(質問 3) 桑の葉やブルーベリーの収穫は、暑くて大変とのこと。自身も体験あるのでわかる。正会員の構成、例えば、男女構成や年齢を知りたい。50 代、60 代の男性が会員にいるなら、援農が広がるのではないか。

(回答) 総会のあと、北尾理事が会員名簿等から集計をおこなった。下表の通り：

援農会員の男女・年齢構成・平均年齢(2023年1月1日現在)										
援農会員数 (人)	男女構成(人)		40歳未満 (人)	40代 (人)	50代 (人)	60代 (人)	70代 (人)	80歳以上 (人)	年齢調査 中(人)	*平均年齢 (歳)
114	男性	56	10	10	23	24	35	6	6	61.6
	女性	58								

* 平均年齢は、年齢未確認（調査中）の6名を除き算出

(質問 4) 桑の葉の需要と供給を知りたい。まだ桑の葉があるのに、終了と言われる。

(回答) 創輝さんと農家さんとで計画・調整しており、目標に到達次第終了となっている。

すすしろ 22 は計画の詳細はわからないし、需要と供給までは、踏み込めない。

(質問 5) 小林養鶏場の援農では作業が終わり次第終了となる。作業時間が 3 時間 20 分と半端な場合は、20 分を切り捨てている。月単位で積算するなど何か考えられないか。

(回答) 援農時間は毎月、援農窓口と援農サポーターが集計し、更に何人かがチェックし、間違いのないよう慎重に作業を行っている。半端な開始・終了時間だと集計ミスが発生しやすいので、30 分単位での援農をお願いしています。ただ、作業実績表に記入された時間は、30 分単位でない場合も切り捨てせずに集計しています。集計ミスを防ぐためにも、作業表への記入は、読みやすい文字でお願いします。

- ・ 第 1 号議案は、議長が拍手による承認を求めたところ、賛成多数により可決した。

第2号議案 2022年度決算報告

- ・「決算」を青山理事より、「会計監査」を鳴海監事より、「活動監査」を川村監事より報告。
- (質問6)活動監査で、援農者と受入農家とのマッチングや固定化の是非について、調査検討をお願いします、とのことだが、なぜこの意見なのか知りたい。
- (回答)農家さんは慣れた人に来てほしいと思っているが、すすしろ22としては、広くいろいろな人に援農に関わってもらいたい。今後のためにも調査等必要ではないかという意見です。
- ・第2号議案は、議長が拍手による承認を求めたところ、賛成多数により、可決した。

第3号議案 2023年度活動計画案

- ・「運用体制」を飛田_憲理事より、「援農活動」を北尾理事より、「農地応援活動」を清水理事長より、「地産地消活動」を若林理事より提案。
- (質問7)農福連携として具体的にどうしているか。
- (回答)具体的にはまだつめていない。以前、A型就労支援施設から依頼があったが、これから議論が必要と考えている。福祉と連携しながら農家の応援をしていきたいという気持ちがあるので、検討していく。
- (意見1)耕作放棄地がなくなったらいいと考えている。
- (回答)農地を残したいというのは、会の設立の目的でもある。適切な場でトライしていきたい。次の世代に農地を残したいという思いでやっている。
- ・第3号議案は、採決の結果、賛成95名により、可決した。

第4号議案 2023年度予算案

- ・青山理事より提案。
- ・第4号議案は、賛成95名により可決した。

第5号議案 役員の選任

- ・2023年度の役員候補
理事：清水義秋、青山登、北尾力、小西慶久、飛田康太郎、飛田恵美子、
糠信栄里、若林裕子、
監事：川村美恵子、鳴海有理
- ・拍手で承認。

IV、議長解任

V、書面にて提出いただいた質問と回答および意見

- (質問8)援農要請農家の経営実態は？
- (回答)会員農家さんの殆どは専業農家であると思われ、約1~3haを1~3名の労働力で耕作されています。援農依頼が年々増加していることはイコール農家さんの活性化が図られている証と捉えています。
- (質問9)八王子農業の未来図をどう描いているか。
- (回答)地球環境に配慮したフードマイレージ意識の高まり、食料安全保障面から自給率向上の必要性、新鮮で安全・安心な生産者の顔が見える農産物の希求等々、農業を取り巻く環境は近年大きく変容しており、今後益々、地産地消への理解が深まるものと考えます。行政においては、地域活性化事業や担い手対策事業など多くの農業振興施策に注力されています。自然豊かで肥沃な土壌を有する50万人都市八王子の農業の未来は明るいと考えています。
- (意見2)会員の皆様と交流したいです。
- (回答)会員150名超の大きな集まりとなり、交流の必要性を強く感じているところがあります。交流の機会創出として以下の対応について検討して参ります。
- ・総会時にイベントを開催する
- ・会員を対象とした収穫イベントを実施する
- ・「会員の声特集号」を年2回程度発行する



以上、通常総会報告